

各関係機関長 殿
病虫害防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病虫害防除所長
(公印省略)

平成26年度農作物病虫害発生予察情報について

平成26年度農作物病虫害発生予報及び半月報を発表したので送付します。

平成26年度農作物病虫害発生予報第2号

平成26年5月19日
徳島県

I. 果樹

カンキツ

そうか病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月前半の巡回調査では、春葉での発生は認められていない(平年同時期は発生圃場率が2.9%、発病度が0.0%)。
- (2) 5月15日発表の1か月予報では、天気は数日の周期で変わり、気温は平年より低く、降水量は平年並、日照時間は平年並か低いと見込まれており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生園では落花期に薬剤防除を行なう。

黒点病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月前半の巡回調査では、春葉での発生は認められていない(平年同時期は発生圃場率が3.8%、発病度が0.01)。
- (2) 5月15日発表の1か月予報では、天気は数日の周期で変わり、気温は平年より低く、降水量は平年並、日照時間は平年並か低いと見込まれており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 枯れ枝、剪定枝は園外へ持ち出して処分し、病原菌密度の低下に努める。
- (2) 落花期に薬剤防除を行ない、その後1か月、または降水量200~250mm毎に防除を励行する。

かいよう病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月前半の巡回調査では、旧葉での発生圃場率が93.8%であり、平年(41.1%)に比べてやや高めの発生であるが、発病度は0.22であり、平年(0.2)並の発生である。
- (2) 5月15日発表の1か月予報では、天気は数日の周期で変わり、気温は平年より低く、降水量は平年並、日照時間は平年並か低いと見込まれており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 罹病枝のせん除を行ない、常発園や罹病性品種園では防除を励行する。
- (2) 風当たりの強い園では防風対策を講じる。

ヤノネカイガラムシ

1) 予報内容

発生時期 平年より遅い

2) 予報の根拠

(1) 5月15日時点において、県予察圃場での第1世代幼虫の初発生は確認していない(平年:5月16日,前年:5月18日)。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 薬剤による防除適期は、IGR剤の場合、発生確認の10~15日後、有機リン剤の場合、35~40日後の時期である。

ミカンハダニ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 5月前半の巡回調査では、旧葉での発生圃場率は43.8%、寄生葉率は4.4%であり、平年(40.5%, 6.8%)並の発生である。

(2) 5月15日発表の1か月予報では、天気は数日の周期で変わり、気温は平年より低く、降水量は平年並、日照時間は平年並か低いと見込まれており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。防除の際には、充分な量の薬液を散布する。

(2) ミカンハダニは薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一系統薬剤の連用を避ける。

ナシ

黒星病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 5月前半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が12.3%、発病葉率が0.2%、発病果率が0.0%)。

(2) 5月15日発表の1か月予報では、天気は数日の周期で変わり、気温は平年より低く、降水量は平年並、日照時間は平年並か低いと見込まれており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 防除暦に準拠し、初期防除に努める。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 5月前半の巡回調査では、発生圃場率は12.5%、寄生新梢率は0.3%であり、平年(57.6%, 5.6%)よりやや低めの発生である。

(2) 5月15日発表の1か月予報では、天気は数日の周期で変わり、気温は平年より低く、降水量は平年並、日照時間は平年並か低いと見込まれており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

(2) アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液が葉裏にも充分付着するように丁寧に散布する。防除の際には、充分な量の薬液を散布する。

(3) 薬剤抵抗性の発達をもたらす恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

果樹共通

果樹カメムシ類

1) 予報内容

発生時期 平年よりやや遅い(前年よりやや遅い)

発生量 平年より多く(前年より多い)、発生程度は「中~多」

2) 予報の根拠

- (1) 今春の予察灯調査において、ツヤアオカメムシは勝浦町では平年(4月27日)より遅い4月29日に、上板町では平年(4月26日)と同時期の4月26日に初誘殺を確認した。チャバネアオカメムシは勝浦町では平年(4月28日)より遅い4月30日に、上板町でも平年(4月27日)より遅い5月2日に初誘殺を確認した。
- (2) 2月に実施したチャバネアオカメムシの越冬調査(11地点×2か所調査)では、全点で越冬を確認、越冬成虫は6.6頭/m²であった。昨年(11地点×2か所の調査では5地点で越冬を確認、越冬成虫数は0.41頭/m²)と比べて越冬密度は高かった。
- (3) 5月15日発表の1か月予報では、天気は数日の周期で変わり、気温は平年より低く、降水量は平年並、日照時間は平年並か低いと見込まれており、やや発生抑制的な気象条件である。

[ツヤアオカメムシの誘殺数]

月半旬	勝浦町					上板町				
	2014年	2013年	2012年	2011年	平年	2014年	2013年	2012年	2011年	平年
5.1	28	0	97	0	20	50	0	13	0	39
5.2	28	28	166	2	62	19	0	54	10	71
5.3	96	76	53	59	46	216	2	34	7	78
5.4		50	71	25	129		2	14	3	54
5.5		34	49	6	81		1	15	3	50
5.6		43	170	1	100		29	4	6	21
6.1		7	75	28	39		2	15	5	9

[チャバネアオカメムシの誘殺数]

月半旬	勝浦町					上板町				
	2014年	2013年	2012年	2011年	平年	2014年	2013年	2012年	2011年	平年
5.1	12	0	22	0	8	2	0	4	0	18
5.2	4	0	22	3	26	3	0	20	12	39
5.3	34	6	3	8	9	19	0	31	11	42
5.4		5	7	0	45		0	14	5	19
5.5		20	4	0	52		1	3	5	19
5.6		19	17	0	34		9	3	0	11
6.1		3	4	10	16		0	5	2	4

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 果樹園周辺の雑木林から成虫が飛来するので、園内を巡回し飛来に注意するとともに、飛来を認めたら早急に防除を行なう。
- (2) 夜行性の虫なので、薬剤の散布は夕方か早朝に実施する。
- (3) 移動性が高いため、広域一斉防除により防除効果の向上に努める。

II. その他

- 1) 薬剤の使用に当たっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないようにして下さい。
- 2) 水田に薬剤を使用したときは、7日間以上止水して下さい。

発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所
U R L : <http://www.pref.tokushima.jp/tafftsc/t-boujoshou/>

○病害虫の発生予察情報、発生状況、防除法等をお知らせしています。